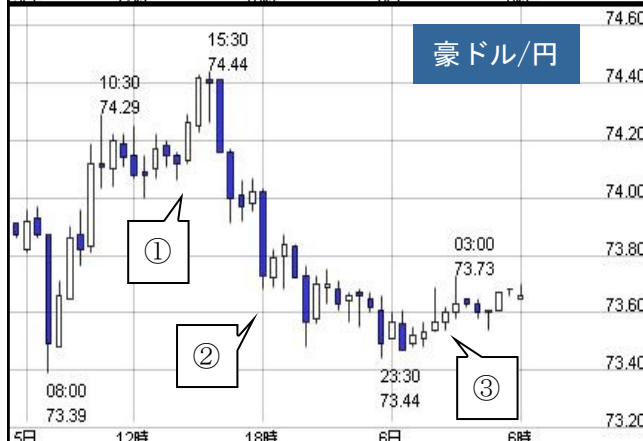


7月6日(火曜日)

ユーロ/円  
ユーロ/ドル  
豪ドル/円

## 連休明けのNY勢の動向に注目

### 5日(月)の主な推移



期間：5日(月)午前7時～6日(火)午前6時  
※チャートは30分足 日本時間にて表示  
出所：外為どっとコム

①

格付け会社ムーディーズが、ギラード豪首相と鉱山会社で合意に至った資源超過利潤税について、豪資源会社にとって影響は小さいとの見解を示したが材料視され豪ドル/円が反発した。その後も日経平均株価が堅調に推移した事や原油先物価格の上昇を受けて豪ドル/円はじり高となり、74.44円まで上昇した。

②

6月英サービス業PMIが54.4と予想を下回った事を受けて債券が下落すると、これにつれてユーロも下落した。その後、欧州株の軟調や原油先物価格が下落に転じた事を嫌気してユーロ/円は109.70円、ユーロ/ドルは1.2508ドル、豪ドル/円は73.44円まで下落した。

③

独立記念日の振り替え休日で、米株式・債券市場が休場となり手掛かり材料難の中、動意に乏しい展開が続いたがポジション調整からユーロが上昇する場面も見られた。

### ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスクの緩和(ユーロ上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスク(ユーロ下落要因)

### 豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

### 本日の見通し

#### 本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.2420-1.2670ドル  
 ユーロ/円 : 108.70-111.00円

#### 本日の予想レンジ

豪ドル/円: 72.00-74.00円

本日は、三連休明け、雇用統計明けで実質的に下半期相場のスタートとなるNY市場の動向が注目される。2日の米雇用統計の結果を受けて米国景気の回復に対する懸念からドル売りが先行したが、今後こうした動きが続くのかを見極める必要がある。材料としては6月ISM非製造業景況指数の発表が予定されており、5月からはやや悪化する見込みとなっている。同指標が予想を下回る結果になった場合、米経済への懸念からドル売りが強まるのか、それともリスク回避のユーロ売り(ドル買い・円買い)がメインシナリオとなるのか、市場の反応を見極めたい。(神田)

本日は13時30分に豪準備銀行・RBAから政策金利と声明が発表される。政策金利については4.50%に据え置く事がほぼ確実とみられており、声明文の内容に注目が集まる。ただ、前回政策金利を据え置いた6月の理事会の議事録で、「ユーロ圏と市場の不透明感が世界経済に与える影響を見守る」、「7月後半に発表される第2四半期インフレ統計待ち」とされた事から、今月の声明も先月同様のトーンでややハト派的な声明となる可能性が高く、豪ドル/円の上昇にはつながらにくそうだ。(神田)

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/6(火)	10:30		(豪) 5月貿易収支	+1.34 億 AUD	+5.00 億 AUD
	13:30	◎	(豪) RBA キャッシュターゲット	4.50%	4.50%
	23:00	○	(米) 6月ISM 非製造業景況指数	55.4	55.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。